

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立北八下学校
校長 石井 敬二

中学校区におけるめざす子ども像
自らを律し自ら学び続ける子

令和7年度 重点目標 「児童も先生も学び続け、変わっていく学校づくり」～意識を高めることで行動が変わる。行動を変えることで意識が変わる～

- ・安心・安全で信頼される学校づくり（人権尊重の観点に立った生徒指導、特別支援の観点、未然防止の生徒指導と初期対応）
- ・ICTの推進と授業観のアップデート（学びのコンパスも意識）
- ・学校運営への参画の意識（組織的な学校運営とハウレンソウ、支えあえる仲間〔職場〕づくり）

「確かな学び」の現状
 「主体的・対話的・深い学びのある授業づくり」を推進してきた結果、協働的な学びを通して、主体的に議論・討論に参加する機会が増えるなど、授業改善が進んでいる。一方で、全国値との比較等と参考にすると、より一層推進する必要がある。学習でICT機器の使用が必要だと思っている児童が約95%いる現状に対して、約5%の子どもが毎日使用しているにとどまっている。週3日でも約33%である現状を鑑み、ICT機器の使用頻度を上げていくことは次世代を生きていく児童にとっては急務である。

「豊かな心・健やかな体」の現状
 「学校教育アンケート」では、「あいさつをしている」の肯定的回答率は約9割で高い数値である。保護者アンケートの肯定的回答と開きがあり課題が残っている。「自分に良いところがある」の肯定的回答率が約79%である。自尊感情を高める集団作りや、自分の生き方を意識させるような取り組みにより、さらに向上していきたい。体育大会を通して、体を動かす喜びや集団で作り上げる楽しさを味わうことができた。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	基礎基本の定着	生徒用端末を使うなどして、個に応じたきめ細かな指導を充実する。	各教科の基礎・基本の定着に向けて、定着の工夫や振り返りの充実を図る。	実施状況・成果を判断	すくすくウォッチや各クラスの校内テスト、IRT、アンケート、学習観察、実践記録等	年度末	○ 各教科で反復学習と振り返り活動を継続し、基礎・基本の定着を概ね図られている。	○	ICTに特化した研修を実施。アンケートの「タブレットを使った授業はわかりやすい」項目で約90%の肯定的回答を得たが、さらなる授業改善が必要である。	○	子どもたちのICT活用に対する評価も高く、学習意欲の向上につながる良い傾向がみられる。タブレットの使い方に慣れ、学習の手足となる日を期待している。
			多様な学習形態を工夫し、ICT機器の効果的な活用や教材教具を利用し、学習の定着を図る。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 理解を深めるためにICT活用を進め、学習の定着を図っている。	○			
	授業改善	主体的に考える力を育成する。一人ひとりの思考力・判断力・表現力を育成する。	子どもに問いかけを行い、自分で考えることを促し、児童自ら課題や問題を探求し、答えを見つけるプロセスを経験させる。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 授業改善を目指した研究授業と校内研修を実施し、改善を図っている。	○	主体的・対話的で協働的な深い学びを推進している。アンケートでは「自分の意見を言えている」78%であり、さらなる向上に向け授業改善を進める。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・心情豊かな文章表現がみられ、内容の深まりを感じる。 ・効果的なICTの使用で学びを深めてほしい。 ・授業改善はさらに進めていただきたい。
			生徒用端末（ICT）の積極的な使用と児童同士や教師との協働的な学びを通して意見交換や協力を促し、深い学びにつなげる。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 特に調べ学習で児童用端末を積極的に使用している。	○			
豊かな心・健やかな体	豊かな心	共に認め合い、支えあえる子どもの育成。様々な感動体験を経験する中で自尊感情を高め自信を持てる子どもの育成	人権尊重と特別支援の観点に立ち、すべての教育活動の中で豊かな人権感覚を育てる取り組みを実践する。	実施状況・成果を判断	すくすくウォッチや各クラスの校内テスト、IRT、アンケート、学習観察等	年度末	○ 道徳や人権学習・体験活動と支援体制の充実で意識向上を図っている。	○	アンケートでは「学級・学年で助け合っている」との回答は86%、「行事等で達成感を得ている」のは91%の水準にある。より確かな実感につなげるため改善を図る必要がある。また、子ども中心の活動を充実させ、リーダー育成とエンカウターの推進を図る必要がある。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の取り組みの中で仲間と協力し合い、団結する力がはぐくまれていることがうかがえる。 ・教師間の連携・協力・信頼が見えてきます。 ・この一年間の子どもたちの成長を保護者は感謝している。
			仕掛けのある活動を通じて集団作りとリーダーの育成をすすめ、未然防止の生徒指導の実践を行う。特にいじめのない学校づくりに取り組む。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 縦割り活動やクラブ活動でリーダーを中心に自ら考えて動く機会を提供したり、学級・学年で児童主体の取り組み計画をしている。	○			
			行事や学級活動で、個々の活動実践を推奨し、その過程を支援・援助して自己肯定感や達成感を味わい、自尊感情を醸成する。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 交流活動や体験的活動を取り入れ、協働作業を通して自尊感情を養っている。	○			
	健やかな体	子ども自らが基本的な生活習慣を確立し、健康増進・体力を高める。	体育の授業、体育大会、クラブ活動等を通じて、楽しみながら運動する習慣を身につけ、健康増進を高めるための思考力を向上させる。	実施状況・成果を判断		年度末	○ 20分休憩を利用して「かけあし」と「縄跳びチャレンジ」を実施している。	◎	アンケートでは「体育や外遊びが楽しい」89%、保護者も84%と高い水準である。今後も一層の充実を努めたい。来年度より5、6年生の体育大会にリレーを新設し、堺市連合運動会への意欲向上にもつなげたい。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への取り組みの中で子どもの成長を促してくれた。 ・リレー新設されたことは行事全体を盛り上げるうえでも大変良い取り組みであると感じた。
保健指導・食育を通して健康の大切さに気づかせ、家庭と連携を図り基本的な生活習慣を身につけさせる。			実施状況・成果を判断	年度末	○ 健康だよりや食育授業を通して健康への気づきを促している。	○					
独自の課題	新たな学校	開かれた学校づくり	学校HP・学校だより等を通して家庭、地域への情報発信を行う。	学校協議会を年間3回実施	アンケート、実践記録等	年度末	○ 行事や活動の様子を写真で随時更新したり、学校だよりを通して活動報告をしている。	◎	「学校からの情報発信」は98%の保護者が肯定的評価。子ども第一の授業改善と生徒指導改革の实行。教職員のウェルビーイング向上を通じ、教育の質の充実を図る。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学年通信、ホームページで校内のことがわかりやすく温かさを感じる。 ・子ども中心に据え、寄り添う姿勢を大切にしたい人間教育を営まれていると感じる。
		新たな学校群・学校に向けての準備	★学校群を見据え、小中連携の推進、特に教員間の連携を進める。Society5.0を見据えた効果的な学び方・働き方へのチャレンジ	実施状況・成果を判断	アンケート、実践記録等	年度末	○ 小中で書き合同研修や適宜情報共有を行っている。効果的な教育活動にチャレンジ。	○			

校長より(年度末)
 まずは教職員一人ひとりの意識改革を進めることが重要であると考えました。学校教育の質を高めしていくためには、形だけの改善ではなく、教職員の意識そのものが変わらなければ物事の本質は変わらないと考えた。そのため、これまで慣例的に行われてきた会議を見直し、会議の精選や時間短縮、惰性的に行われていた会議の廃止に取り組んだ。そして、必要な会議については内容を充実させ、「子どもファースト」の視点を共有する質の高い話し合いを心がけた。また、生徒指導や授業づくりについても、子ども中心に据えた指導の在り方を改めて見つめなおし、授業改善につながる取り組みを進めるなど、教育活動全体の質の向上に向けた土台づくりを進めてきた。

学校関係者評価者から(年度末)
 地域行事に参加していただいたり、熱心に指導していただいております。先生方の意識がより良い方向に変わってきているようにみえる。学校の中だけでなく、学校外での研修などにも積極的に参加し、その空気に触れながら多様な視点や新しい考え方を学ぶことが今後の教育実践のさらなる充実につながることを期待している。